

第3章 主な医薬品とその作用

I 精神神経に作用する薬

- 〔1〕 次の記述は、かぜ（感冒）等に関するものである。正しいものの組み合わせはどれか。
- a 冬場に発熱や頭痛を伴って悪心・嘔吐や、下痢等の消化器症状が現れた場合、インフルエンザ（流行性感冒）である場合が多い。
 - b かぜ薬は、ウイルスの増殖を抑えたり、ウイルスを体内から除去するものではなく、咳で眠れなかったり、発熱で体力を消耗しそうなときなどに、それら諸症状の緩和を図る対症療法薬である。
 - c 小児がインフルエンザにかかった場合、サリチルアミドを選択することが望ましい。
 - d 鎮咳成分であるジヒドロコデインリン酸塩は依存性があり、12歳未満の小児には使用禁忌となっている。
- 1 (a、c) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (b、d)

〔北海道・青森・秋田・岩手・宮城・山形・福島〕 45 頁

- 〔2〕 かぜ及びかぜ薬に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。
- a かぜの約8割はウイルス（ライノウイルス、コロナウイルスなど）の感染が原因であり、細菌の感染は原因とはならない。
 - b 急激な発熱を伴う場合や、症状が4日以上続くとき、又は症状が重篤なときは、かぜではない可能性が高い。
 - c かぜ薬は、かぜの諸症状の緩和のほか、ウイルスの増殖を抑えたり、ウイルスを体内から除去することを目的として使用される医薬品の総称である。
- | | a | b | c |
|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 正 | 正 |
| 2 | 正 | 誤 | 正 |
| 3 | 誤 | 誤 | 正 |
| 4 | 正 | 正 | 誤 |
| 5 | 誤 | 正 | 誤 |

〔群馬・茨城・栃木・新潟・山梨・長野〕 45 頁

- 〔3〕 かぜ（感冒）及びかぜ薬（総合感冒薬）に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。
- a かぜの約8割は細菌の感染が原因であるが、それ以外にウイルスの感染などがある。
 - b インフルエンザ（流行性感冒）は、感染力が強く、また重症化しやすいため、かぜとは区別して扱われる。
 - c かぜ薬は、細菌やウイルスの増殖を抑えたり、体内から除去することにより、咳や発熱などの諸症状の緩和を図るものである。
 - d かぜの原因となる細菌やウイルスの種類は、季節や時期などによって異なる。
- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (a、d) 4 (b、d) 5 (c、d)

〔東京・埼玉・千葉・神奈川〕 45 頁

〔4〕 かぜ及びかぜ薬（総合感冒薬）に関する記述の正誤について、正しい組合せを一つ選べ。

- a かぜは様々な症状が組み合わさって現れるため、様々な症状を緩和させるために多くの成分を含有する総合感冒薬を選択することが推奨される。
- b かぜ薬は症状の緩和に加えて、原因となるウイルスの増殖抑制効果も期待できる。
- c 冷氣や乾燥、アレルギーのような非感染性の要因は、かぜの原因とはならない。
- d かぜはウイルス（ライノウイルス、コロナウイルスなど）の感染が原因であり、細菌の感染は原因とはならない。

	a	b	c	d
1	誤	誤	誤	正
2	誤	誤	正	誤
3	誤	正	誤	誤
4	正	誤	誤	誤
5	誤	誤	誤	誤

〔滋賀・京都・大阪・兵庫・和歌山・徳島〕 45 頁

〔5〕 かぜ（感冒）及びかぜ薬（総合感冒薬）に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a かぜの症状は、くしゃみ、鼻汁・鼻閉（鼻づまり）、咽喉痛、咳、痰等の呼吸器症状と、発熱、頭痛、関節痛、全身倦怠感等、様々な全身症状が組み合わさって現れる。
- b かぜの約8割は細菌の感染が原因であるが、それ以外にウイルスの感染や、まれに冷氣や乾燥、アレルギーのような非感染性の要因による場合もある。
- c かぜ薬は、咳で眠れなかったり、発熱で体力を消耗しそうなときに、それらの諸症状の緩和を図る対症療法薬である。
- d かぜであるからといって必ずしもかぜ薬を選択するのが最適とは限らず、存在しない症状に対する不要な成分が配合されていると、無意味に副作用のリスクを高めることとなる。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	正	正	誤	正

〔富山・石川・岐阜・静岡・愛知・三重〕 45 頁

